

## 教育実習（プレ教育実習）の学びを深める実践省察研究

保健体育・日野克博

### 1. 授業の概要

「実践省察研究Ⅰ」は，学校教育教員養成課程並びに特別支援教育教員養成課程の2年生を対象に開講されている科目である。授業の概要は次のとおりである。

#### <授業の目的>

附属校園の教育実習における研究授業の観察及び協議会への参加（プレ教育実習）の経験に基づき，教科内容の理解，教材の工夫，板書や発問等の授業技術などの観点から研究授業を振り返り，次年度の教育実習にむけた意識の高揚と今後の取り組みに対する課題を明確にする。

#### <授業の実施方法>

受講者は，教育実習生が公開する研究授業を3つ選択し，それぞれの研究授業・研究協議・大学での省察授業を受講する。附属小学校では2日間（同学年組別研究授業，異学年組別研究授業）で計18授業，附属中学校では2日間（教科外授業研究，教科別授業研究）で計12授業，附属幼稚園では教育実習生の公開保育の日が1日設定される。受講生は，そのなかから自己の興味・関心，専門教科，次年度の教育実習の希望校種や学年などから3つを選択し，それぞれの授業に参加し，

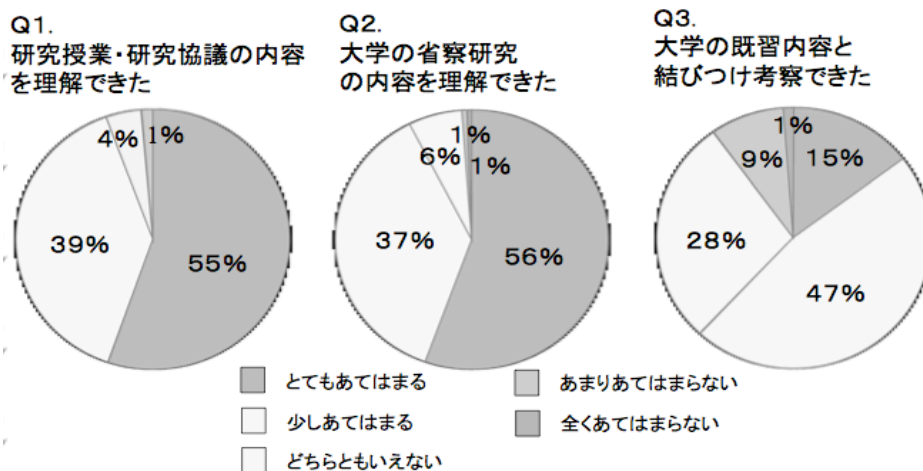
記録簿，省察科目の課題，総括レポートを提出することになっている。

#### <運営体制>

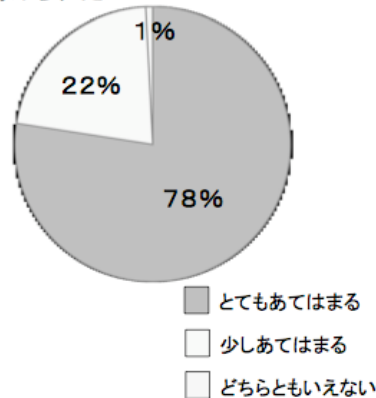
実践省察研究の運営は，大学教員が担当する。実習カリキュラム委員会が全体のマネジメント，事前指導・総括授業，附属校との連絡調整にあたり，各授業については，教室ごとに選出された実習マネージャー，教育実習指導助言教員，プレ教育実習支援教員が役割を担うことになる。役割を分担しながら多くの教員が教育実習関連の科目にかかわることで，大学も教育実習に組織的に関与し，附属校園との連携を強化させている。

### 2. 授業の実施と学生の反応

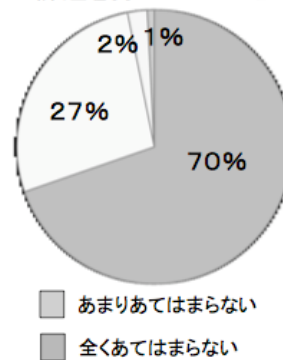
実践省察研究を受講した学生に，授業を振り返って調査したところ，下図のように，多くの学生から肯定的な回答が得られた。とくに「次年度の教育実習に対する意識を高められた」「今後の大学生活での学びの課題を持つことができた」ではほとんどの学生が肯定的な回答を示しており，2年生にとっては大変意義深い授業になっていた。3年生の姿を自らの1年後に重ねてみることで，次年度の教育実習がより具体的な課題として受け止められるようになったものと思われる。



Q4.  
次年度の教育実習に対する意識を  
高められた



Q5.  
今後の大学での学びの  
課題を持つことができた



また、そのことは、学生の省察レポートにも多くみられており、その一部を紹介する。

3年生の視点と私たちの視点の差が大きいことがわかりました。実際にやってみないとわからないことは多いと思います。今回その体験談を聞いたり、実習をみせてもらったことで、もっと高い意識を持つとうとうことができました。

この講義を受講していなければ、これからの1年間で今までどおりに淡々と過ごしていただろう。しかし、この講義を受けて、教育のとらえ方や自分自身の課題について考え直さなければならぬと強く感じた。

### 3. 今後の問題点

新カリキュラムから導入された実践省察研究については、教育実習の経験をより充実させる省察科目として期待は大きい。学生からの授業評価やレポートからは高い評価を得たが、本当の成果は、その後のカリキュラムにおける学びや次年度

の教育実習等にどう活かせるかである。また、大学教員もこの授業を通して、大学授業と教育実習の内容の整合性や関連性を図っていくことが求められている。今後、教育実習並びに実践省察研究を充実させていくためには、附属校との連携強化、授業担当者（間）の意識統一、学生の受講意識の高揚、授業成果（教育効果）の検証などが課題としてあげられる。

また、実践省察研究は、選択教科である。多くの学生が受講するものの、なかには受講しないで教育実習に参加する学生もいる。履修ガイダンスや履修指導を充実させ、学生の参加を促進するとともに、次年度の教育実習に向けて、学生の自己教育課題を明確化することを大切にしていきたい。

最後に、3年生では、教育実習後に実践省察研究Ⅱが開講される。今年度は、実践省察研究Ⅱの受講生が予想よりも少なく、実践省察研究Ⅰの2年生にとっては、もっと3年生の話が聞きたかったという声が多かった。実践省察研究Ⅱについても、カリキュラムの体系化として強化していく必要がある。